



報 館

玄洋143号

令和6年4月1日

発行

一般社団法人

玄洋社記念館

郵便番号 814-0013

福岡市早良区藤崎2丁目

12番11号

E-mail: genyosha.kinenkan1@gmail.com

理事長挨拶

一般社団法人 玄洋社記念館
理事長 妹尾俊見

令和六年元旦に発生しました能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。

い、三年に亘る経済低迷期を脱しつつあります。しかし、一方で人口減少と超高齢社会が進行する中で我が国の経済では人材不足は更に深刻化し、エネルギーや原材料価格は高騰するなど、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しく、金融・為替市場の動向も含めて、先行きの不透明感は否めません。

さて、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

このような先行きが見通せず変化の激しい時代だからこそ、玄洋社の先達が日本を立て直すため、当時の混沌とした世の中において自らの努力と気概、知恵と工夫を發揮し活動したことを教訓に、私たちはこの難局に対処していくことが重要と考えます。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

私たちが玄洋社記念館といたしましては、創設者、故進藤一馬先生の意を体し、戦争回避に腐心した廣田弘毅先生、東條英機に抵抗した中野正剛先生の顕彰行事を催し、アジアの平和を願った頭山満翁をはじめとする玄洋社諸先覚の精神の伝承に努めていく所存であります。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

賛助会員の皆様におかれましても、引き続きご理解を賜りますようお願い申し上げます。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

また、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナ侵攻や中東パレスチナ情勢の深刻化など、日本を取り巻く世界情勢は不安定な一年でした。

玄洋社憲則

- 第一条 皇室ヲ 敬戴ス可シ
- 第二条 本国ヲ 愛重ス可シ
- 第三条 人民ノ権利ヲ 固守ス可シ

今号の主な内容

- ▽玄洋社物故者慰霊祭齋行報告 11面
- ▽「中野正剛先生顕彰祭」齋行報告 2面
- ▽館報バックナンバー 来島恒喜小伝 2・3面
- ▽会費納入のお願い 3面
- ▽賛助会員芳名録 4面

頭山満翁並びに玄洋社物故者

厳粛に慰霊祭

頭山満翁はじめ玄洋社先覚の慰霊祭が、玄洋社の菩提寺、福岡市博多区千代四丁目「崇福寺」本堂で昨年十月八日、齋行された。同寺方丈の読経が流れる中で、参列者

が頭山満翁の座像が安置された祭壇に焼香した。主催の明道館山崎拓理理事長は参列者に謝辞を述べ、「頭山満は大アジア主義をもって孫文を助けた。支援した資金は莫大な金

額であり、玄洋社はアジアの為に働き、奔走したにもかかわらず、現在では東シナ海や台湾における中国の傲慢な大国主義は我慢ならない事案であり、改めて玄洋社精神を興しアジアの平和と発展のために進むべきではないか。」と現在の日中関係への思いを述べた。

廣田弘毅先生顕彰祭のご案内

福岡市が生んだ唯一の総理大臣、廣田弘毅先生を顕彰する「廣田弘毅先生顕彰祭」を令和6年5月18日(土) 10時30分から齋行します。玄洋社記念館主催。

場所は福岡市中央区城内5(福岡市美術館入り口)の廣田弘毅先生銅像前です。なお、雨天時は中止といたします。

参加費は1,000円。お問合せは玄洋社記念館事務局まで。



中野正剛先生没後八十年

中野先生顕彰祭を斎行



中野正剛先生の銅像



太平洋戦争中、総理大臣の東條英機を公然と批判したことで知られ、昨年で没後80年になる福岡出身で憂国の政治家、中野正剛先生の功績をしのぶ顕彰祭が玄洋社記念館主催により福岡市中央区今川、鳥飼八幡宮境内の中野正剛先生銅像前で行われた。

秋、恒例の行事で賛助会員をはじめ、中野先生にゆかりのある人などおよそ40名が出席した。

主催した玄洋社記念館の妹尾俊見理事長は、「中野正剛先生は言論が統制された非常に厳しい環境の中で自分のできることは何かという思いで動かされた。いまのわれわれも、世界や国内の山積する課題に対し自分には何ができるのか、中野正剛の生き様から感じ取っていかなければならぬ」と出席者に話した。

中野正剛先生は地元出身の戦前の衆議院議員で、太平洋戦争のさなか独裁的な政治体制を敷いた総理大臣、東條英機を公然と批判をし、80年前の昭和18年(1943)10月、内閣の打倒を企てたなどとして身柄を拘束され、釈放後に割腹自殺をしました。

参加者たちは、「雄弁家」として知られた中野先生の演説姿の銅像に向かって手を合わせるなどして、その功績を偲んだ。

館報バックナンバー

来島恒喜小伝

風蕭々

柳 猛直

<1>

明治政府は、幕末・安政年間に欧米列強と結ばれた不平等条約の改正に取り組む。しかし、改正案は欠陥だらけだった。国民から反対の大合唱が起こり、玄洋社先覚・来島恒喜が外相・大隈重信に投じた爆裂弾が止めを刺した。

玄洋社記念館と財団法人明道会は、来島恒喜の壮挙から百年の平成元年、「志士来島恒喜先生百年祭」の記念誌として「来島恒喜小伝「風蕭々」」を発行した。著者は元フクニチ新聞編集局長で郷土史研究家の柳猛直氏(故人)。簡潔・痛快な内容は読む人を飽きさせない。国政のなかでも外交問題が大きく浮上している今、小伝を再録し、先覚らの国家を思う心情を振り返ってみる。

常盤館の乱闘

平成元年、一九八九年は玄洋社の来島恒喜が黒田清隆内閣の条約改正案に憤激して外務大臣・大隈重信を襲い爆裂弾を投げつけて自らは、その場で自刃した明治二十二年(一九八九年)十月十八日から、ちょうど百年に当たる。

当時、天下を震撼させたこの大事件は、自由民権と藩閥政府の鋭い対決の

場が発した火花であったが、全体を貫いているものは清冽な武士道の精神であった。それは、加害者、被害者の双方にいえることで、当時の人々に深い感銘を与えたのも、そのことであつたと思われる。

少年時代から人參畑塾で高場乱の教えを受け越智彦四郎、武部小四郎、箱田六輔、平岡浩太郎、頭山満、進藤喜平太等の先輩と交わって国士の気概を持つことになる。

明治九年から十年にかけて騒乱の兆しがあらわれるころ、父親の又右衛門は恒喜が騒ぎに巻き込まれることを恐れて粕屋郡窪内村の知人のもとに彼をあずけている。恒喜十八歳。既にこのころから後年の行動の萌芽があつたようである。

明治十年の西南戦争が終わつたあと箱田六輔、進藤喜平太、平岡浩太郎、頭山満等によつて自由民権の結社「玄洋社」が結成される。

福岡西職人町の海岸にあつた玄洋社は「水滸伝」の豪傑連が立て籠つたという梁山泊の観を呈した。来島恒喜は二十代のはじめであつたが色白く鼻高く眼が豹のように鋭かつた。

沈思寡黙、用がなければ一日中、物を言わない青年で、じつと考え込んでいる時は凄味があつたといふ。

来島恒喜は福岡・葉研町の馬廻役・三百五十石、来島又右衛門の二男で安政六年(一八五九年)十二月三十日の生まれ。

館報バックナンバー



頭山 満翁



来島 恒喜先覚

※館報86号より
次号「風蕭々」2を掲載します。

明治十五、六年ごろ、玄洋社の梁山泊は外を覗んで満を持していた。

そのころ、福岡の状況は三百代言と博徒と医学生が徒党を組んで乱暴狼藉の限りを尽くしていて警察も手がつけられない状態であったというが、ここに玄洋社が博徒の荒肝をひしぐ事件が起こる。

大野仁平という博徒の親分がいたが、この男は戊辰戦争で福岡藩の「勇悍隊」に参加して戦ったというので、勇悍仁平、というアダ名があった。

勇悍隊は農民、町人で編成したもので町のごろつきと言われる連中もまじって非常に勇敢に戦い、仁平も負傷している。

この仁平が玄洋社の連中に殴られるのだが、この起こりは玄洋社が東京

の柴四郎(会津の人。アメリカに留学し東海散士と号し明治時代の代表的政治小説「佳人之奇遇」の作者)の歓迎会を常盤館で開いた時、隣の部屋で飲んでいたので仁平の一派で、芸者を総上げにして騒いでいた。

平岡浩太郎が仁平の座敷から芸者を取ってくるのだが仁平たちは玄洋社の宴会をぶちこわしてやろうと待ち構えていた。というの、その前に仁平の子分が玄洋社の連中にたたき伏せられたことがあり恨みをもっていた。

宴たけなわのころを見ながら仁平が子分の古賀壯兵衛、井上留吉等を引きつけて、ふすまをガラツと開けると「お酌しまつしよう」と踊り込んできた。仁平は酒樽をかぶって入ってきたという。

もともと喧嘩を吹っかけるつもりだから乱暴の上もない。そのうちに来島恒喜が、そばにあつた燭台を握って振りあげると、いきなり仁平の頭をガンとくらわした。仁平の頭から血が、ブーツとふき出す。

これがきつかけで双方立ち上がって、そこで組み打ちがはじまる。常盤館では「そらはじまった」というので刃物をかくすやら子供を避難させるやら大騒ぎだった。

乱闘が続いている間、頭山は悠然と座つたままであつたが「言うことがあれば、おれが一人で引き受ける。客を呼んでお席上は無礼なふるまいをするとはならん」と叱りつけて、その場はおさまった。

までは顔が立たんというので石堂橋のそばで来島を待ち伏せしていた。来島を先に帰して頭山が一人で悠々とやってくると石堂橋の物かげから仁平と子分たちが、ばらばらと飛び出してきた。頭山が睨みつけて「貴様らは、まだそんなことをしよるか！」と怒鳴りつけると「や、頭山さんじゃった」と逃げてしまった。結局この喧嘩は仁平が頭を割られ損ということになった。

ところが、この乱闘が縁で大野仁平一派は玄洋社と、すっかり意気投合してしまい、以後は玄洋社の手足となって働くことになった。

玄洋社の野村翔(かけ)が頭領になって彼等を率いることになるのだが「何か強そうな名前をつけなさい」というので頭山が

「金剛党」と命名した。野村翔は福岡の変にも参加した豪傑で金剛党について「金剛党というのは当時はほとんど強盗の如くに跋扈していた三百代言に對抗させるためと、また一つには朝鮮あたりで事を挙げる時、何か旗持ちにでもなるだろうと、思つて大野等を集めて組織したものである」と語っている。野村は筋骨たくましい大男で金剛党に睨みをきかしていたが後年、菓院出口の長円寺で箱田六輔の年忌が行われた時、金剛党の喧嘩勘兵衛という暴れ者が一杯機嫌でやってきて自慢話をしたり人を殴つたりした。

野村は「この場所を何としようるか！」と大喝して勘兵衛が持つていたキセルをもぎ取って、それで殴りつけた。勘兵衛はひたひたからダラダラ血を流しながら酔いもさめて小さくなつていたという。大野仁平もこの野村には殴られたことがあつた。

玄洋社は、こうして幅広い組織を持つことになる。

野村は「この場所を何としようるか！」と大喝して勘兵衛が持つていたキセルをもぎ取って、それで殴りつけた。勘兵衛はひたひたからダラダラ血を流しながら酔いもさめて小さくなつていたという。大野仁平もこの野村には殴られたことがあつた。

令和六年度
会費納入のお願い

賛助会員の皆様には、日頃より玄洋社記念館の活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、玄洋社記念館は四月一日から令和六年度の賛助会費の受け付けを始めさせていただきます。

会員の皆様には出費多端の折、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力をお願い申し上げます。賛助会費の受け付け要領は次の通りです。

【賛助会費の額】

▽個人会費 一口一万円
▽法人・団体会員 一口三万円

【振込先】

【郵便振込】
口座番号
017700

1520738

【銀行振込】
西日本シティ銀行
赤坂門支店 普通預金
口座番号
0740047

宛名はいずれも
「玄洋社記念館」です。

賛助会員芳名録

令和5年度

1月31日受付分まで(敬称略)

▼法人・団体の部

【三万円】

(株)アキラホールディングス (福岡市)

(宗)節信院 (福岡市)

(株)オーエムジャパン (福岡市)

警固神社 (姫路市)

駿和物流(株) (福岡市)

博多港管理(株) (福岡市)

九星飲料工業(株) (糸島市)

社会医療法人原土井病院 (福岡市)

太宰府天満宮(太宰府市)

東海大学 (東京都)

福岡縣護国神社 (福岡市)

平野神社 (福岡市)

(株)理創 (福岡市)

* (株)理創 (福岡市)

*令和4年度分

▼個人の部

【三万円】

花田 勲 (東京都)

妹尾 俊見 (福岡市)

【二万円】

縄田 智行 (福岡市)

【二万円】

谷本 憲彦 (広島市)

木下 隆 (福岡市)

川崎 賢治 (福岡市)

進藤 玄 (東京都)

山城 直之 (福岡市)

鬼木 誠 (福岡市)

大石 宗 (福岡市)

鷺海 量良 (東京都)

加藤 健太郎 (東京都)

國松 誠 (藤沢市)

櫻木 嵩士 (阿南市)

塚田 征二 (福岡市)

樋口 義則 (糟屋郡)

平山 康樹 (春日市)

堀内 恭彦 (福岡市)

山座 和基 (福岡市)

安川 重臣 (福岡市)

伊東 聡江 (東京都)

隠岐 康 (市川市)

永島 英也 (福岡市)

横田 進太 (福岡市)

皆川 明彦 (さいたま市)

岩崎 成敏 (福岡市)

興膳 克彦 (中間市)

原 祐一 (福岡市)

戸高 有基 (津久見市)

荒津 茂徳 (日進市)

坂井 貞夫 (福岡市)

坂上 英雄 (大阪市)

山内 圭司 (福岡市)

室 潔 (東京都)

秋吉 謙一 (久留米市)

小森 誠 (那珂川市)

小野 勇夫 (福岡市)

庄野崎 徹二 (福岡市)

松野尾 英彦 (北九州市)

上杉 清文 (富士市)

西口 英世 (川崎市)

西川 眞澄 (福岡市)

西村 司 (福岡市)

西本 潤也 (福岡市)

太田 誠一 (福岡市)

川辺 俊幸 (福岡市)

草野 和子 (松戸市)

村井 正隆 (久留米市)

中村 和輝 (筑紫野市)

中村 隆輔 (福岡市)

中本 零時 (東京都)

長岡 聖司 (福岡市)

堤田 智 (福岡市)

田坂 大蔵 (福岡市)

島津 修久 (鹿児島市)

藤田 道子 (福岡市)

頭山 尚子 (東京都)

二之湯 智 (京都市)

梅本 真央 (福岡市)

箱田 満輔 (東京都)

八坂 俊輔 (西之表市)

武田 熙 (さいたま市)

福田 明彦 (福岡市)

平湯 芳裕 (名古屋)

豊沢 猛 (福岡市)

妹尾 正為 (福岡市)

濱地 光男 (大府市)

小野里 耕作 (東京都)

山村 賢三 (太宰府市)

井手 賢三 (北九州市)

財部 敬子 (福岡市)

寺田 蝶美 (福岡市)

宇野 秀史 (福岡市)

後藤 源之 (福岡市)

吉村 弘美 (福岡市)

川上 晋平 (福岡市)

打越 基安 (福岡市)

伊藤 嘉人 (福岡市)

平畑 雅博 (福岡市)

阿部 真之助 (福岡市)

今林 ひであき (福岡市)

大原 弥寿男 (福岡市)

大森 一馬 (福岡市)

津田 信太郎 (福岡市)

川上 陽平 (福岡市)

調 崇史 (福岡市)

堤田 寛 (福岡市)

鬼塚 昌宏 (福岡市)

稲員 稔夫 (福岡市)

とみながひろゆき (福岡市)

淀川 幸二郎 (福岡市)

もろくま 英文 (福岡市)

おばた 英達 (福岡市)

福田 まもる (福岡市)

中島 まさひろ (福岡市)

藤野 哲司 (福岡市)

新開 ゆうじ (福岡市)

坂口 よしまさ (福岡市)

お礼の言葉

令和5年度賛助会費の納入を賜り誠にありがとうございました。今後とも、ご指導、ご鞭撻を、どうぞよろしくお願いたします。(事務局)

玄洋社記念館 ホームページ

<https://genyosha.jp>



玄洋社記念館のホームページでは館報のバックナンバーを順次掲載しております。



代表取締役社長 別府 大輔
本社 〒832-0205 福岡市東区青葉一丁目六番一五三
TEL 092-911-1691-10678
FAX 092-911-1691-14554
E-mail: info@shouten.co.jp

造園・緑化 自然とコミュニケーション

株式会社 別府梢風園

代表取締役社長 別府 大輔



原土井病院

理事長 原 寛

〒813-8588 福岡市東区青葉六丁目四〇番八号
TEL 092(6991)3881
FAX 092(6991)1059



株式会社 アキラ水産

取締役会長 安部 泰宏

本社 福岡市中央区長浜3丁目11番31711
電話 092171116601代表

福岡市中央卸売市場 鮮魚仲卸業

建設コンサルタント
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理
ジーアンドエス・エン지니어リング株式会社
会長 花田 和久
代表取締役社長 児玉 和久